

患者向医薬品ガイドの対象(2)

警告欄のあるもの

- ・ 前記の定義と異なる警告の場合は、作成を要しない

例: 管理に精通している医師又はその指導のもとで行うこと

例: 十分な本剤使用経験を持つ専門医のもとで行うこと

患者向医薬品ガイドの対象(3)

警告欄のあるもの

- ・ 投与対象患者の選択、使用する医療機関の専門性や施設の充実度など、患者・施設の限定に関する記載が、患者に対して当該医薬品の理解・注意喚起につながらない場合にはガイドの作成はしなくてもよい。

患者向医薬品ガイドの対象(4)

- ・ 患者に対して、特別に適正使用に関する情報提供が必要なもの

警告欄記載が無くても「使用上の注意」等に、重大な副作用、事故を防止するため又は適正使用のため、特に患者に対しての説明・指導等が記載されているもの。

例:・・・があらわれるので、その旨を患者にあらかじめ説明しておくこと。

患者向医薬品ガイドの対象(5)

患者に対して、特別に適正使用に関する情報提供が必要なもの

- ・ 用法・剤形が特殊なもので、その使用方法を患者に対して入念に指導すべき医薬品等。

誤使用は事故の元

患者向医薬品ガイドの対象(6)

重大な副作用 の記載がある医薬品

- ・ 患者向医薬品ガイドは、重大な事故・副作用の防止が主眼です。
- ・ 副作用の発現があっても、軽症で済むように患者さんが自覚症状をとらえられるように。

レギュラトリー・サイエンス

規制・行政施策に的確な根拠を与えとともに迅速な対応を促す科学的アプローチ

○科学的合理性

○社会的正当性

これを踏まえて

ガイド記載基準

- ・添付文書内容を正確に反映させる
- ・広告的な内容にならないように
- ・高校生レベルで理解できる内容(健康雑誌や新聞の健康欄のレベル)
- ・他社品の誹謗中傷とならないように
- ・患者さんの目線で

患者さんが知りたいこと

釈迦に説法でしょうが

- ・副作用*
 - ・効果*
 - ・疾病の詳細を分かりやすく
 - ・治療期間はどれくらいか
 - ・メーカーはどんな会社か
 - ・他の治療法はないのか
- 安心するために知っておきたい

副作用は？

(専用の患者副作用用語集を使用します)

重大な副作用	主な自覚症状
うつ血性心不全 うつけつせいしんふぜん	からだがだるい、呼吸困難、 全身のむくみ、吐き気、動くと きの息切れ
心筋梗塞 しんきんこうそく	急激に胸を強く押さえつけられ た感じ、狭心痛、呼吸困難、冷 や汗

患者さんの自覚症状

部位別の副作用(専用の用語集を使用します)

全身	発汗、寒け、脱力感、筋肉痛、 寒けや身ぶるいがして高熱がで る、発熱
頭部	頭痛、意識障害、めまい
眼	眼や皮膚が黄色くなる
口やのど	のどの痛み
尿	尿の色の変化

発現部位

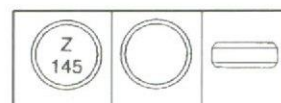
患者さんの自覚症状

副作用の低減・軽減について

- ・重篤副作用も、(患者さんが)早期に気付ければ軽い症状で済む場合もあります。
 - ・予兆が明確であれば患者さんの自覚症状で対処可能な場合もあります。
 - ・重篤副作用は、早期発見して治療することで非重篤になる。できなければ重篤になる
- …企業の副作用担当の正直な意見です。

識別のため、剤形の図示も

- ・錠剤の図
- ・サイズ、色、重さ
- ・識別コード
- ・チューブ
- ・注射筒
- ・吸入器



カラー画像を望みましたが、ファイルが重くなること、色の表現がPCによって正確に表現できないことから断念しました。

残念！！

☆この薬についてのお問い合わせ先は？

症状、使用方法、副作用等の、より詳しい質問があった場合には、主治医や薬剤師にお尋ね下さい。

☆この医薬品に関する一般的な事項に関するご質問は、

製造販売会社：〇〇製薬株式会社

(<http://www.marumaru-pharm.co.jp>)

くすりの相談窓口：03-XXXX-0093

企業は、お電話を待っています

公開は？

独立行政法人

医薬品医療機器総合機構(Pmda)

医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.info.pmda.go.jp/>

添付文書、副作用、回収情報等も

患者向医薬品ガイドのこれから

本年3月までに全ての薬効群で該当医薬品のガイドを作成公開してゆきます。

ご意見等ございましたら、企業や業界団体まで。

副作用発現が少しでも減少することを祈っています。

ご清聴に感謝します。

ことばからみた「患者向け医薬品ガイド」

渋谷 有貴

はじめに

本研究の構成メンバー

- 行政(厚労省)
- 医薬品を用いて治療を施す者(医師)
- 医療品を取り扱う者(薬剤師)
- 製薬会社
- 医薬品を使用する者(私の立場)

「患者向け医薬品ガイド」の目的

患者を含む一般の人々が薬について正しく理解し、重篤な副作用の早期発見に役立つこと

- ・全体に患者にとって分かりやすい内容
(高校生レベルの読解力で理解できる)
- ・次にどうすべきかわかる等

⇒ ことばの問題
「伝える」ということ

コミュニケーションの様式

- ・医師・薬剤師等の専門家 (主體的) ⇔ 一般の患者 (依存的)
単なる「伝達」(依存的)
《一方的なコミュニケーション》
- ↓
- ・医師・薬剤師等の専門家 (主體的) ⇔ 一般の患者 (主體的)
《相互的なコミュニケーション》
- …インフォームドコンセント
セカンドオピニオンなど

相互的なコミュニケーションへ

※一般患者が「知る」「分かる」「納得する」こと
「責任」ある「判断」「選択」へ



一般の人々の医療への主体的な参加

- ・協同的な取り組み [信頼関係に基づく]
- ・「伝え合い」「分かり合い」「考え合い」
⇒ 「共通語」の獲得へ
「患者向け医薬品ガイド」作成へ

現状と具体例

■「振戦」？

- ・日常生活でほとんど使用しない
- ・見たり聞いたりする機会が少ない

表現 { 「震え」！
「手足の震え」！！
「羽ばたくような手足の震え」！！！！

※相手の経験や状況を想定

=相手の視点に立つ

…「伝える」むずかしさ

その他の具体例

- 「まとめて飲んでください」
- 「最近かぜをひいた人」……
1ヶ月前は？
- 「すぐに」「ただちに」
「なるべく」……って実際のどのくらい？
- 「食間に飲んでください」
- 多く飲めばよく効く？
- 「浮腫」……って？
- 「とん服」「とん用」……素人は違いがあいまい

専門家
⇕
一般患者

認識の「隔たり」

「共通語」の獲得にむけて

「隔たり」の認識＝「ちがひ」を認め合う



- ・ コミュニケーションの前提
- ・ 相手の視点に立つために
- ・ 「共通語」＝分かり合える「ことば」の模索
→対話

※日本人の傾向
今日の学校でも課題

患者の心理的要素 「不安」

- 疾患&服薬……「不安」「緊張」↑↑
 - ・ 過剰な依存傾向
 - ・ 冷静な判断が困難
 - ・ 悲観的な判断・思いこみ
 - ・ 断片的なこだわり
 - ・ 理解力の低下
 - ・ 動機付け・意欲の低下 など
- ※「伝わりにくさ」⇒「伝える」うえでの配慮も

まとめ

- 専門家の「常識」と一般患者の「認識」の「隔たり」における「伝わりにくさ」の実態
↓
- 相互的なコミュニケーションの重要性
- 分かり合える「ことば」の獲得にむけて

おわりに

「患者向け医薬品ガイド」の表記

「向」→「向け」……読みやすい

手に取りやすい

親しみやすい

※一般の使用者の視点から

「患者向医薬品ガイド」への期待

NPO法人ヘルスケア・リレーションズ理事長 和田ちひろ

昨今、患者の医療への参加が様々な観点から重要視されている。その中のひとつに医療安全への患者参加が挙げられる。平成17年に出された報告書「今後の医療安全対策について」では、「患者、国民との情報共有と患者、国民の主体的参加の促進」が3つの重点項目のうちの一つに挙げられ、患者、国民の医療への参加を促すため、必要な知識と情報が提供され、患者、国民が医療に主体的に参加することの意義について理解していることが将来像のイメージとして描かれている。

患者の主体的参加として期待されることのひとつに、自身が飲んでいる薬の副作用にいち早く気づき、医師や看護師、薬剤師に伝えるという役割が考えられる。患者自身が副作用に気づくためには、「患者向医薬品ガイド」に書かれているような平易な言葉で書かれた自覚症状を患者自身が理解し、意識しておく必要がある。勿論、薬の効用よりも副作用に気を取られすぎて、不安に駆られる危険性もあるため、情報を提供するだけではなく、情報を解釈、咀嚼するための支援が今後は求められるであろう。

また「患者向医薬品ガイド」の普及方法についても、様々な方法が考えられるべきである。現在は、インターネット上のホームページから閲覧可能となっているが、将来的には必要な人の手により容易に届くよう、調剤薬局等で薬を渡す際に薬剤師が手渡したり、「患者情報室」などにこうした情報は置かれたりすべきであろう。患者情報室とは、医療機関の中にある患者向け情報室で、患者が疾患や障害についての治療法を学んだり、闘病記を読んだり、自身の疾患や障害の患者会を知ることができるように情報収集している施設のことである。そうした施設内に「患者向医薬品ガイド」が置かれていれば、自身の飲んでいる薬に関する副作用や主な自覚症状等について詳しく知りたい場合には、情報を入手することができる。現在、こうした患者情報室は、全国の医療機関に約100箇所ほど設置されている。医療従事者からの説明も重要ではあるが、大学に図書館があるのと同様に、病院に患者情報室があり、自己学習を支援し、患者の医療への積極的参加を促すことがこれからの医療には求められている。

受身のお任せ医療から患者が参加する医療へと変わろうとしている今、患者自身の気づきを促す「患者向医薬品ガイド」への期待は大きい。

参 考 2

平成 18 年度 作業報告書
副作用と自覚症状双方向の検索及び照会可能な用語集の作成

報告書

2007 年 3 月 15 日

インタージョイン株式会社

【概要】

副作用用語集のメンテナンスを引き続き行った。

医薬品・医療機器総合機構で公開する用語集データを出力するための作業および提出を行った。

【作業内容】

1. 用語集のメンテナンスを実施

用語の修正作業および読みの追加と修正を行った

重大な副作用用語およびその他の副作用用語の校正資料提出

校正終了後資料の修正

DB 構築と校正後データの初期投入

2. 提出用語集を EXCEL データとして出力

提出用語集の出力仕様に基づく修正

公開用語集の提出

1. 用語集のメンテナンス

特定された患者向医薬品ガイドを作成する医薬品について、総合機構より当該医薬品添付文書情報 PDF をダウンロードし、重大な副作用用語をすべてチェックした。

その結果に基づき、用語集 DB と照合し、該当しない用語を検出し研究班に提出した。

研究班より当該用語の自覚症状および部位情報を受領し、用語集 DB へ反映し結果を校正(確認)していただいた。

指示に基づき、研究班および総合機構へ「用語集 (Excel データ) v1.0x」として提出した。

【まとめ】

用語集について：

1. 「患者向医薬品ガイド」に関する副作用用語集について

本年度は、「患者向医薬品ガイド」の作成対象について対象医薬品の重大な副作用用語を、モデルとなる先発品の添付文書情報 PDF に実際にあたって確認することで、副作用用語集の網羅性、用語記述の実際の検証を行ない用語集の網羅性の充実を行った。

2. 添付文書記載表記のチェック

添付文書情報 SGML では構造上の記載方法にばらつきがあり、機械的（プログラムの）に抽出できる限界が判明していたため、本年度の作業はモデル医薬品についてはすべて添付文書 PDF をダウンロードし、重大な副作用項目をチェックすることで使用用語（重大な副作用用語）の正確な確認作業を行った。

3. 登録用語との照合、非該当語の抽出

前項の作業により確認された用語と用語集 DB の登録語を照合し、未登録語についてリスト化して研究班に提出し、自覚症状とあわせて用語集 DB に登録した。

4. 実施記録

平成 18 年 6 月 29 日	用語集 V1.02 作成
平成 18 年 9 月 1 日	用語集 V1.03 作成
平成 18 年 11 月 30 日	用語集 V1.04 作成
平成 19 年 2 月 15 日	用語集 V1.05 作成
平成 19 年 3 月 6 日	用語集 V1.06 作成

以上

研究協力者一覧

研究協力者 (50 音順)

安部 好弘	社団法人日本薬剤師会	理事
黒木 正	製薬協・医薬品評価委員会 PMS 部会	拡大幹事
渋谷 有貴	藤沢市教育委員会教育総務部 学校教育課	訪問相談員
高橋 隆一	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	名誉院長
埜中 征哉	国立精神・神経センター	名誉院長
村上 紀子		食生活ジャーナリスト

オブザーバー

張替 ひとみ NPO 法人コミュニティ・ヘルスケア研究会

普及推進事業オーガナイザー

佐藤 信範 独立行政法人千葉大学大学院薬学研究院 助教授

分 担 研 究 報 告

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
分担研究報告書

患者・国民の医療における役割と教育に関する研究

分担研究者: 栗原健(独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター薬剤科)

研究協力者: 楠岡英雄¹、斉藤和幸²、花井十伍³、

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、²北陸大学薬学部臨床薬学教室、

³ NPO法人ネットワーク医療と人権)

研究要旨

患者が医薬品情報についてどのような情報を得ているか、また薬や情報に対する考え方について調査するため、3つのアンケート調査を実施。様々な角度から検討を加え、患者・国民の医療における役割と教育について提言をまとめた。

1. 大阪医療センター附属看護学校の1年生81名に対し、薬と服薬についての調査を実施した。病院で処方された薬について、効果や使用方法については約80%が知っているとしたが、副作用を知っていると回答した人数は、全体の約40%。これは、OTC薬でも同様の傾向を認め、添付されている副作用を読んだ人数は約50%であった。知りたい項目の上位に副作用や相互作用があることから、副作用に興味はあるものの、若い世代では文字が苦手で、読むことを面倒と考える傾向があると推察された。一般用医薬品の添付文書を読みやすい形に改訂することと、医薬品広告の際、使用上の注意をよく読むよう、注意喚起のためのアナウンスが必要であると思われた。
2. 患者向医薬品ガイドの発行について、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML会員1400人を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。回収は41枚。今回の調査結果から患者向医薬品ガイドの発行については、概ね良好な評価が得られたものと思われた。比較的高齢者の多い調査群であるにもかかわらず、インターネットへのアクセスは良好で、PDFファイル形式での公開についても問題はないものと思われた。また、患者向医薬品ガイドの第一の目的である、重大な副作用の早期発見にも、ガイドが役立つとの評価を得た。ただし、今回の調査は調査例数が少なかったため、結果に対する評価は、慎重に取り扱う必要があると思われた。
3. 昨年実施した予備調査項目に検討を加え、積極的な薬物治療参加(患者の役割)について、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML会員1400人を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。回収は31枚。患者が考える薬物療法への積極的な参加に対するキーワードは「医師・薬剤師に聞いて理解すること」。積極的に薬物治療に参加している患者は「医師・薬剤師に説明を求め理解している患者」。患者が積極的に薬物治療に参加するために、医師や薬剤師の医療従事者は「分かりやすく説明する」ことが求められ、患者が積極的に薬物治療に参加するために患者は「自分自身で記録をとることと、自己責任を持つ」ことが求められ、患者が積極的に薬物治療に参加することが出来るようになるためには「分かりやすい情報提供(活字媒体)」が必要と結論づけられる。患者に必要な情報は、患者が必要とするときに、分かりやすく提供することが重要であること

が示唆された。インターネットを利用した、分かりやすい薬の副作用情報を提供するゲートウェイ的なホームページの開設が望まれる。

患者・国民の医療における役割を検討し、患者向けには「くすりの確認 10 ヶ条」を、説明を行う薬剤師向けには、服薬指導を行う際の確認すべき 10 のポイントをまとめたので提言する。

A. 研究目的

本研究は、患者・国民が主体的参画によってその役割を果たすための安全対策に関する理解度を向上させることを目的に、患者・国民の薬物療法における役割についてアンケート調査を通して明確にし、患者教育の在り方を提言することを目的とする。

B. 研究方法

患者が医薬品情報についてどのような情報を得ているか、また薬に対してどのように考えているかについて実態調査を行い、集計・解析を加え、患者に対する啓発方法について提言を行う。平成 18 年度は、昨年度実施した調査を基に調査内容を拡大し調査を行った。3つのアンケート調査を基に検討を加えた。

1. 大阪医療センター附属看護学校の1年生81名に対し、薬と服薬についての調査を実施した。調査項目は別紙の通り。
2. 患者向医薬品ガイドの発行について、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML会員1500人を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。
3. 昨年実施した予備調査項目に検討を加え、積極的な薬物治療参加(患者の役割)について、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML会員1500人を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。
(倫理面への配慮)アンケート調査、聞き取り調査では、調査対象者の基礎情報を一切排除した。すべての研究結果において、個人・施設が特定できるような情報は省いた。

C. 研究結果

1. 以下に調査内容と結果を示す。

問 1. 年齢:① 10 歳代 ② 20 歳代 ③ 30 歳

10 代	18(22%)
20 代	40(49%)
30 代	20(24%)
無回答	4(5%)

問 2. 性別:① 男性 ② 女性

男	6(7%)
女	72(88%)
無回答	4(5%)

問 3. お薬をお飲みになったことがありますか。

①はい	②いいえ(→問 16 へ)
はい	82(100%)
いいえ	0(0%)

問 4. それは病院・医院で処方された薬ですか。

①はい ②いいえ(→問 12 へ)

(病院で処方された薬と、薬局で買われた薬の両方を飲まれた経験がある方は①を選んで下さい)

はい	75(91%)
いいえ	3(4%)
無回答	4(5%)

<病院で処方された薬について質問します>

問 5. 薬のききめはご存じでしたか(ご存じですか)。

①知っていた(知っている)	②知らなかった(知らない)	③どちらとも言えない
知っていた	65(80%)	
知らなかった	11(13%)	
どちらともいえない	6(7%)	

問6. 薬の飲み方や使い方はご存じでしたか(ご存じですか)。

①知っていた(知っている) ②知らなかった(知らない) ③どちらとも言えない

知っていた 68(83%)

知らなかった 3(4%)

どちらともいえない 11(13%)

問7. 薬の副作用はご存じでしたか(ご存じですか)。

①知っていた(知っている) ②知らなかった(知らない) ③どちらとも言えない

知っていた 33(40%)

知らなかった 35(43%)

どちらともいえない 13(16%)

無回答 1(1%)

問8. 処方された薬は飲まれましたか(飲んでいますか)。

①指示どおり飲んだ(飲んでいる)→(問7へ)

②適当に飲んだ(適当に飲んでいる)→(問8へ)

③ほとんど飲まなかった(ほとんど飲んでいない)→(問9へ)

指示通り飲んだ 64(78%)

適当に飲んだ 15(18%)

ほとんど飲まなかった 3(4%)

問9. 薬を指示通り飲んだ(飲んでいる)理由についてお答え下さい。(複数回答可)

①病気の治療のため ②体調が悪いから ③予防のため ④症状が悪くならないように ⑤医師がすすめたから ⑥家族や友人がすすめたから ⑦なんとなく ⑧その他()

治療のため 60(38%)

症状悪化を防ぐ 35(22%)

体調が悪いから 30(19%)

医師のすすめ 17(11%)

予防のため 7(4%)

家族、友人のすすめ 3(2%)

なんとなく 3(2%)

その他

5(3%)

問10. 薬を適当に飲んだ(飲んでいる)理由についてお答え下さい。(複数回答可)

①飲んでも効かない様な気がする ②副作用が気になる ③飲むと体調が悪くなるから ④医師が信用できない ⑤なんとなく ⑥その他()

なんとなく 5(20%)

副作用が気になる 3(12%)

効かないような気がする 2(8%)

飲むと体調が悪くなる 2(8%)

医師が信用できない 2(8%)

その他 11(44%)

問11. ほとんど薬を飲まなかった理由についてお答え下さい。(複数回答可)

①飲んでも効かない様な気がする ②副作用が気になる ③飲むと体調が悪くなるから ④医師が信用できない ⑤なんとなく ⑥その他()

副作用が気になる 2

効かないような気がする 1

飲むと体調が悪くなる 0

医師が信用できない 0

なんとなく 0

その他 3

<一般に販売されている薬について質問します>

問12. 薬局・ドラッグストア等で薬を購入されたことはありますか。

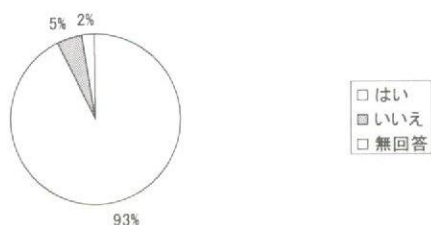
① はい ② いいえ

はい 76(93%)

いいえ 4(5%)

無回答 2(2%)

薬局、ドラッグストアで薬を購入したことがある



説明書の「使用方法」を読んだ

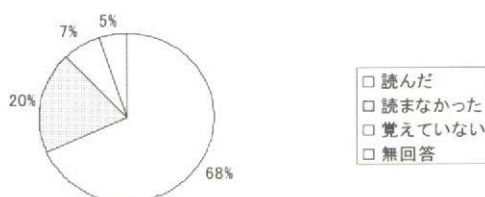


問 1 3. お薬の説明書の「薬の効果」を読まれましたか。

① 読んだ ② 読まなかった ③ 読んだかどうか覚えていない

読んだ	56 (68%)
読まなかった	16 (20%)
覚えていない	6 (7%)
無回答	4 (5%)

説明書の「薬の効果」を読んだ

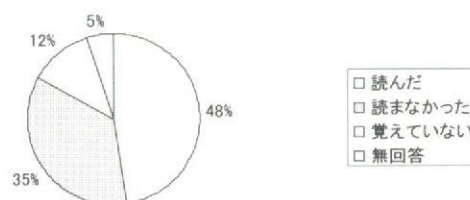


問 1 4. お薬の説明書の「飲み方や使い方」を読まれましたか。

① 読んだ ② 読まなかった ③ 読んだかどうか覚えていない

読んだ	74 (91%)
読まなかった	2 (2%)
覚えていない	2 (2%)
無回答	4 (5%)

説明書の「副作用」を読んだ



問 1 5. お薬の説明書の「薬の副作用」を読まれましたか。

① 読んだ ② 読まなかった ③ 読んだかどうか覚えていない

読んだ	39 (48%)
読まなかった	29 (35%)
覚えていない	10 (12%)
無回答	4 (5%)

<薬の情報について質問します>

問 1 6. 薬のことを知りたいと思いますか。

① はい ② いいえ→(問 17へ)

はい	81 (99%)
いいえ	0 (0%)
無回答	1 (1%)

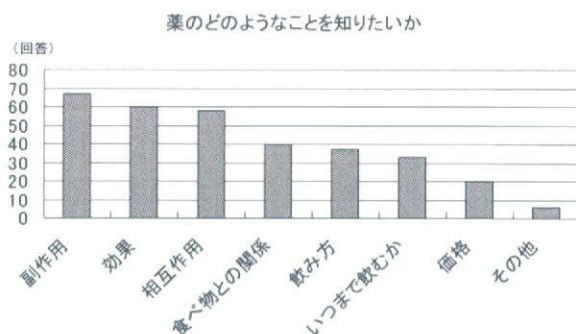
問 1 7. 薬のどのようなことを知りたいですか。
(複数回答可)

① ききめ ② 飲み方 ③ 副作用 ④ 薬ののみあわせ(相互作用) ⑤ 薬をいつまで飲むのか ⑥ 食べ物との関係 ⑦ 薬の価格 ⑧ その他()

副作用	67 (21%)
効果	60 (19%)

相互作用	58(18%)
食べ物との関係	40(12%)
飲み方	37(12%)
いつまで飲むか	33(10%)
価格	20(6%)
その他	6(2%)

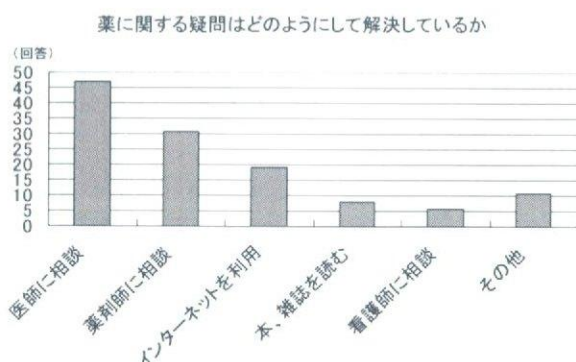
(総回答数 321)



問18. 薬に関する疑問はどのように解決していますか。(複数回答可)

- ①医師に相談する ②薬剤師に相談する ③看護師に相談する ④インターネットを利用して情報を得る(どのような情報が詳しくお書きください) ⑤市販の本や雑誌を読む(具体的な本や雑誌名をお書き下さい) ⑥その他()

医師に相談	47(39%)
薬剤師に相談	31(25%)
インターネットを利用	19(16%)
本、雑誌を読む	8(7%)
看護師に相談	6(5%)
その他	11(9%)



問19. 薬に関することで、何かご意見がございましたらお書き下さい。

・以前ドラッグストアで鎮痛薬を購入しました。飲み過ぎると子宮癌になる可能性があるといわれました。どのくらいが飲み過ぎなのでしょう？
・一般に販売されている薬ではほとんど効能が現れないのですがどうしてですか？

・今まで通っている病院は薬の説明はしてくれるが、副作用の説明は過去に2, 3回しかなかったと思います。なので自分自身気にしていませんでした。

・今まで副作用ということを知らなかったのを知りたい

・液・粉・カプセル・錠剤での効き目の違いを知りたい

・風邪なのになぜたくさんの薬が処方されるか

・薬の値段を知りたい

・薬を飲むのが苦手なので飲みやすいものがあればいいと思います

・薬を全く飲まない人がいて、自然治癒力だけで疾患やけがを完治できるのでしょうか？根本的に薬とは症状を治めるだけで、治すものではないのでしょうか？

・なぜ、ブランドの薬は高価なのか？なぜ似たような名前が多いのですか？

・名前が覚えにくい。値段がわかりにくい

・飲んでも眠くならない薬はありますか？

・病院や医師によって出される薬が違うのはなぜか？

・副作用については訪ねない限り説明はないと思う

・もっとおいしい飲みやすい薬を作ってほしい

問20. 薬に関することで、日頃疑問に思っていることがあればお書き下さい。

・安定剤を副作用が気になるので飲んだり飲まなかったりしている。それでは効果が出ないか？また、薬に頼るよりカウンセリングや、認知療法などを受けるべきか？

・医師の薬の選択基準がわからない。効き目が悪

いと薬を変更したりするが、その際の説明がないので大丈夫なのかと思う。聞かないと説明のない人がいる。聞く前に伝えるのが当然だと思う。

- ・一般の薬局の薬と病院の薬は何が違うか？ずっと飲み続けていると効きにくくなることもあると思うのですがやはりそうなののでしょうか？
- ・いつまで飲み続ければいいのか？自分である程度回復したと思ったら処方されていても途中でやめてしまうのでそれでいいのか？
- ・いつまで飲むのか(治ってそうでも、全部飲みきるのか)
- ・栄養剤やサプリメントは薬ですか？
- ・お酒と薬の併用はだめか？お酒を飲んでも指示通りに薬を服用した方がいいのか？
- ・大人と子供で服用量が違ったり 1 日量が決まっていることが疑問です。
- ・同じ症状でも病院ごとに薬の種類がちがうのはなぜ？
- ・風邪で症状がよくなったら、もう飲まないようにしているが、処方された分だけ飲んだ方がいいのか？薬にも消費期限があるのか？(よく古い薬を飲むので)
- ・風邪をひいただけですぐに抗生剤を処方する医師がいるが抗生剤はあまり飲まない方がいいと聞きます。どうなのでしょう？また、しばらくして同じように風邪をひいた場合は以前病院でもらった残りの薬を自分で判断して服用してもいいですか？薬に消費期限はあるのですか？薬を服用する回数が多いと、自分の体の自然治癒力は低下していくのでしょうか？(風邪の様な病気の場合)
- ・漢方薬とサプリメントには副作用がないか？
- ・漢方薬は安全で、普通の薬は怖いと思っている人がいるのが不思議。
- ・漢方薬はふつうの薬とどう違うのか？薬を使用するよりも、漢方薬使用の方が体にとって負担が少ないのか？
- ・薬に頼りすぎることによって人間が本来持っている自然治癒力が失われていくのですか？もうすでに失われつつあるのですか？
- ・薬の開発費はどれくらい？

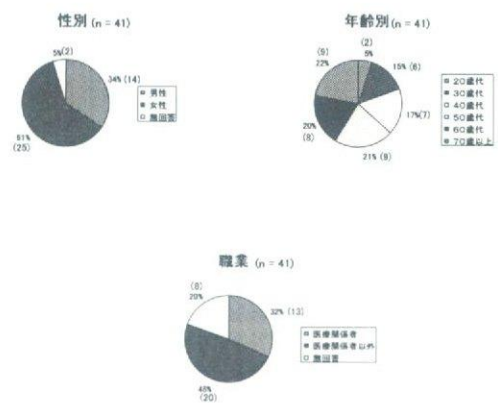
- ・薬の名前がややこしかったり、似ていたりするので、もっとわかりやすくないでしょうか？
- ・薬の名前はなぜあんなに長いのか(覚えにくい)。
- ・薬の飲み合わせで絶対してはいけないこと・漢方薬について疑問があります。
- ・薬の飲み方で食前食後の区別があったり、お茶で飲んだらだめとか聞いたことがあるのですが、胃の中に入ってしまうと全部混ざってしまうのであまり関係ないと思うのですが。
- ・薬の保存期間はどれくらいか？
- ・薬はできるだけ使用しない方がいいのでしょうか？
- ・薬を飲む時間や、何で飲むかなどで、どのように効果や副作用に変化があるか？
- ・薬を飲むと胃が荒れるのかどうか？胃薬を服用した方がいいのか？
- ・薬を飲むときは絶対に水で飲まなければいけない？お茶やジュースではいけないですか？
- ・薬を飲むとなぜ眠たくなるのか？
- ・薬を飲んでも症状が改善されない場合や、悪化する場合がある。しかし薬を変えることで楽になる場合がある。薬の選び方の基準は？
- ・薬をもらうときに説明書がつくのですが、わかっていれば省けますか？(あの紙にも値段がかかっていると聞いたのですが)
- ・高血圧の薬を飲んで知るとグレープフルーツを食べてはいけないという話を聞いたことがあります。そのような食べ物との関係がどの薬にもあるのでしょうか？
- ・子供の発熱で様々な薬を飲ませますが、毎月のように何らかの薬を何年も飲み続けて成長に影響はないのでしょうか？毒でもあると思うので服用中止の見切りの付け方も知りたい。
- ・ジェネリック医薬品とそうでない薬の、効果を知りたい。同じ効果が得られるのか？
- ・食後・食間・食前と飲む時間が違うのは何か意味があるのだと思うのですが、なぜなのかがよくわかりません。
- ・人工透析の患者さんは沢山の薬を服用しているが、効能効果を知りたい。

- ・生理痛の薬は2錠目からは再度痛くなってから服用すればいいのでしょうか。あるいは箱に書いてある時間は空けて痛くなる前に飲むのでしょうか。
- ・体質によって薬の量を守っても効かない人、また効き過ぎることがあるように思います。
- ・大量に処方されることがありますが、症状が全くなくなればもう飲まなくていいのでしょうか？
- ・たくさん飲んでも飲みあわせは悪くないのか？ジュースやポカリスエットで飲んでもいいか？
- ・例えば病院で処方された鎮痛剤を服用していると、胃痛が起きやすいと思いますが、こちらから言わなければ胃薬はもらえません。可能性が高い件であれば病院側から先に説明があってもいいように思うのですが・・・。
- ・治験について、その過程や、実際に問題が起こったときの対応などについて。
- ・鎮痛薬は飲み続けていて大丈夫か？低用量ピルを飲むとホルモンバランスが整いいいという本が出ているが、本当か？
- ・点滴について2種類の点滴の違いを聞くと、ポカリとアクエリアスの違いと同じといわれましたが、効果は全く違いました。こんなことがなぜ起こるのですか？
- ・どうしてあんなに小さいのに、何倍もある人間の大きな体に効くことができるのか？自分が治ったと思っても処方された薬は飲み続けなければならないのか？
- ・なぜ水で飲まなければいけないのか？症状が治まれば飲むのを中止してよいか？賞味期限があるのか？
- ・なぜ特に必要でないであろう薬を処方する医師がいるのか？
- ・病院で1年前にもらった薬が残っていて、また同じような症状になったとき、飲んでもいいのかなあと思いながら、飲んでいきます。よく皮膚科に行きますがステロイド剤をもらいます。女性によくないと聞きますが本当ですか？
- ・病院でもらう薬の「食間」がよくわからない。
- ・副作用・相互作用・効果。

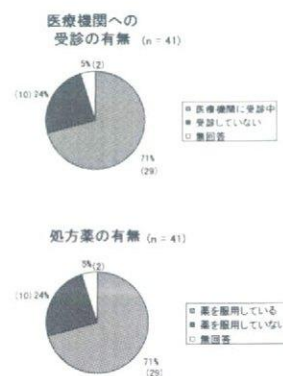
- ・副作用があっても薬は飲むべきか？
- ・本当に効き目があるのか？効かない人もいるのか？それはどうして？
- ・毎日毎日薬を飲んでるといざというとき(ひどい時)に効かなくなるんですか？
- ・薬局などで売られている薬と病院で処方される薬の差について。

2. 患者向医薬品ガイドの発行に関する調査結果。
NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML会員を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。配布は1400枚、回収は41枚で回収率は2.9%であった。

回答のあった調査集団の背景は図の通り。

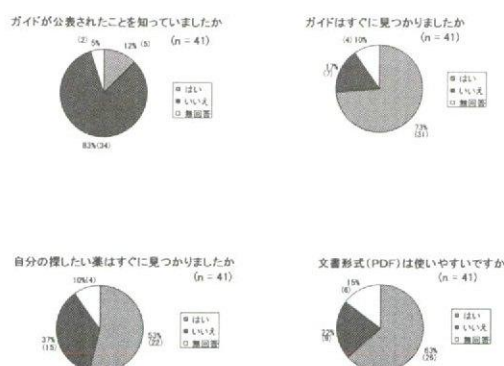


医療機関へは29名が受診しており、そのすべてが処方薬を服用していた。

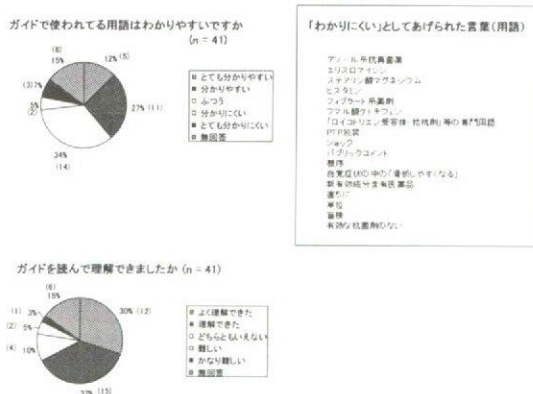


ガイドが公表されていたことを知っていたのは34名。31名がすぐに見つかったと答えている。自分の探したい薬はすぐに見つかったかとの間に

対しては 22 名が「はい」と答えていた。文書形式(PDF)の使いやすさについて聞いたところ、26 名が使いやすいと答えた。

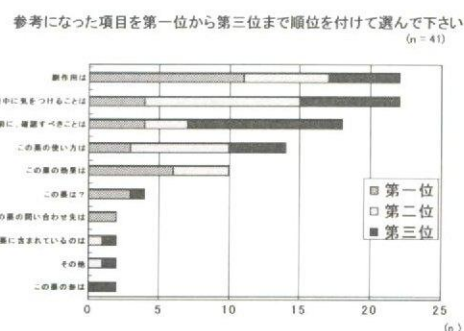


ガイドで使われている用語について分かりやすいかと聞いたところ、5 名が「とても分かりやすい」、11 名が「分かりやすい」と答えた。「分かりにくい」言葉を聞いたところ、アゾール系抗真菌薬、エリスロマイシン、ステアリン酸マグネシウム、ヒスタミン、フィブラート系薬剤、フマル酸ケトチフェン、「ロイコトリエン受容体拮抗剤」等の専門用語、PTP 包装、ショック、パブリックコメント、機序、自覚症状の中の「骨折しやすくなる」、新有効成分含有医薬品、直ちに、単位、盲検、有効な抗菌剤のない、といった言葉(用語)があげられた。12 名が「よく理解できた」、15 名が「理解できた」と答えた。

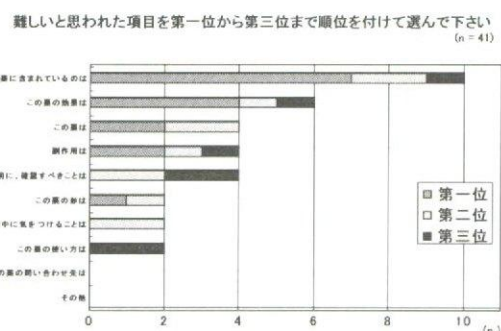


参考になった項目について順位をつけて回答を求めたところ、1～3 位の合計では「副作用は」と「使用中に気をつけることは」が同数の 1 位であった。次いで「使う前に確認すべきことは」「こ

の薬の使い方は」「この薬の効果は」と続いた。第 1 位だけを見ると「副作用は」の次に「この薬の効果は」があげられていた。



難しいと思われた項目について順位をつけて回答を求めたところ、1～3 位の合計では「この薬に含まれているのは」が圧倒的に多く、次いで「この薬の使い方は」が続いた。その他、個別意見は別表 1 のとおり。



ガイドを参考に「どうすればよいか」が実行できるかと聞いたところ、11 名が実行できる、9 名がやや実行できると答えた。ガイドの公表について聞いたところ、32 名がこのような情報が必要と答えた。また、今後の活用について聞いたところ、30 名が活用したいと答えた。